



県内経済情勢 (令和7年4月判断)

令和7年4月22日

財務省関東財務局
千葉財務事務所

照会先

千葉財務事務所 財務課 (TEL 043-251-7213)

ホームページ <https://lfb.mof.go.jp/kantou/chiba/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、持ち直している」

項 目	前回（7年1月判断）	今回（7年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）7年4月判断は、前回7年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（7年1月判断）	今回（7年4月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
設備投資	6年度は増加見込みとなっている	6年度は増加見込みとなっている	
企業収益	6年度は増益見込みとなっている	6年度は増益見込みとなっている	
企業の景況感	「上昇」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を下回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や、各種政策効果が持ち直しを支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

物価上昇の影響がみられるなか、百貨店販売額は前年を下回っているものの、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額及びドラッグストア販売額などは前年を上回っている。乗用車の新車登録届出台数は前年を上回っている。娯楽や飲食サービスなどは緩やかに回復しつつある。このように個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 2月は全体的な気温の低さから春物衣料の動き出しが遅く、3月に入ってから度重なる降雪の影響で客足が遠のいたこと等から、売上げが伸び悩んだ。(百貨店・スーパー)
- 供給量が少ない生鮮野菜など、商品仕入価格や輸送コスト等の上昇が続いているものの概ね価格転嫁できており、客単価が上昇。また、価格優位性があり好調なPB商品を販売拡大していることもあり、売上げは前年を上回っている。(百貨店・スーパー)
- 人気商品の値引きなどイベント施策が好評であったほか、おにぎりやパンなどで価格を抑えた商品を投入したこと等から、客数・売上げとも増加している。(コンビニエンスストア)
- 寒さの影響もあって、カイロのほか、ハンドクリームなどのスキンケア用品も好調。また、3月からは気温上昇に伴い花粉症対策商品も売れ行きが良い。食料品も、品薄となったコメや野菜などが目的の来店が増えており、全般的に好調。(ドラッグストア)
- メーカーの生産・出荷停止の影響は落ち着いてきた。初売りキャンペーンの効果もあって購入目的での来店客数も従前の水準に戻りつつあり、新車販売台数は前年を上回っている。(自動車販売)
- 原材料の高騰や賃上げによる人件費増のため利用料金の若干の値上げを行ったが、会員にクーポン券を抽選で配布しているほか、天候にも恵まれ、客足が遠のく様子もなく、売上げ・来場者数ともに前年を上回っている。(娯楽)
- 複数回値上げを行ったこと等から客単価が上昇傾向にある。足下では、年始や節分、卒業シーズンといった「ハレの日」需要も高まっており、売上げは堅調に推移している。(飲食サービス)

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

生産を業種別にみると、食料品及び化学などが増加しているものの、石油・石炭などが減少していることから、全体としては、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

- 日本食ブームが拡大している海外向けについて、商品の拡充や顧客のニーズに合わせたきめ細かな対応をするなど注力しているほか、円安の影響もあって売上げが大きく伸びており、生産も拡大している。(食料品)
- 半導体関連製品等の需要が高まっていることに加え、製品販売価格の値上げや円安の影響もあり、工場の稼働率・生産量は好調に推移している。旺盛な需要に対応するため、生産能力増強のための投資も予定している。(化学)
- 降雪等による影響でトラック等の長距離運搬需要が減退したことや、3月に入ってから気温高による影響で暖房用の需要も減少したこと等から生産量が減少した。(石油・石炭)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

新規求人数は減少しているものの、有効求人倍率は横ばいとなっている。雇用保険受給者実人員は前年を上回っている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- 人手不足は深刻な状況であり、特に新卒者を含む若年層の不足感が強い。地域住民の減少もありそもそもの応募人数が少ないため、人手が増やせないことを前提とした業務効率化等を進めていく必要があると考えている。(小売業)
- 正規・非正規ともに不足しているが、特に厨房スタッフが不足している。基本的には正規社員でまかなっているが、最近では見込みがある非正規社員に研修を受けさせ、割増賃金で働いてもらうといったケースも出てきている。(飲食サービス)
- 初任給の高騰など採用環境が厳しくなりつつあり、新卒採用の展望は見通せない状況であるが、人手不足のため今後は採用人数を増やしたいと考えている。(製造業)

■ 設備投資 「6年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年1～3月期

- 製造業では前年比増減率0.2%の減少見込み、非製造業では同52.2%の増加見込みとなっており、全規模・全産業では同43.6%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」7年1～3月期

- 製造業では前年比増減率40.7%の増益見込み、非製造業では同11.6%の増益見込みとなっており、全規模では同15.1%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年1～3月期

- 先行きについては、7年4～6月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家、貸家は前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事請負金額をみると、前年を上回っている。

県内経済情勢 (令和7年4月判断)

(資料)

目次	(頁)
1 . 個人消費	1
2 . 生産活動	2
3 . 雇用情勢	3
4 . 設備投資	4
5 . 企業収益	4
6 . 企業の景況感	4
7 . 住宅建設	5
8 . 公共事業	5

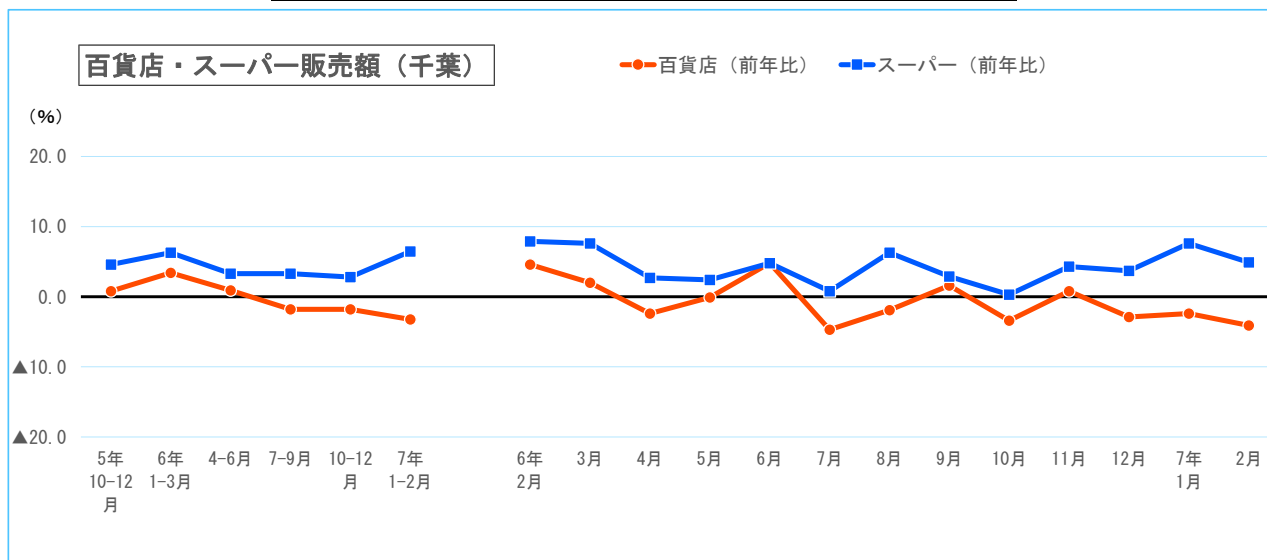
令和7年4月22日

財務省関東財務局

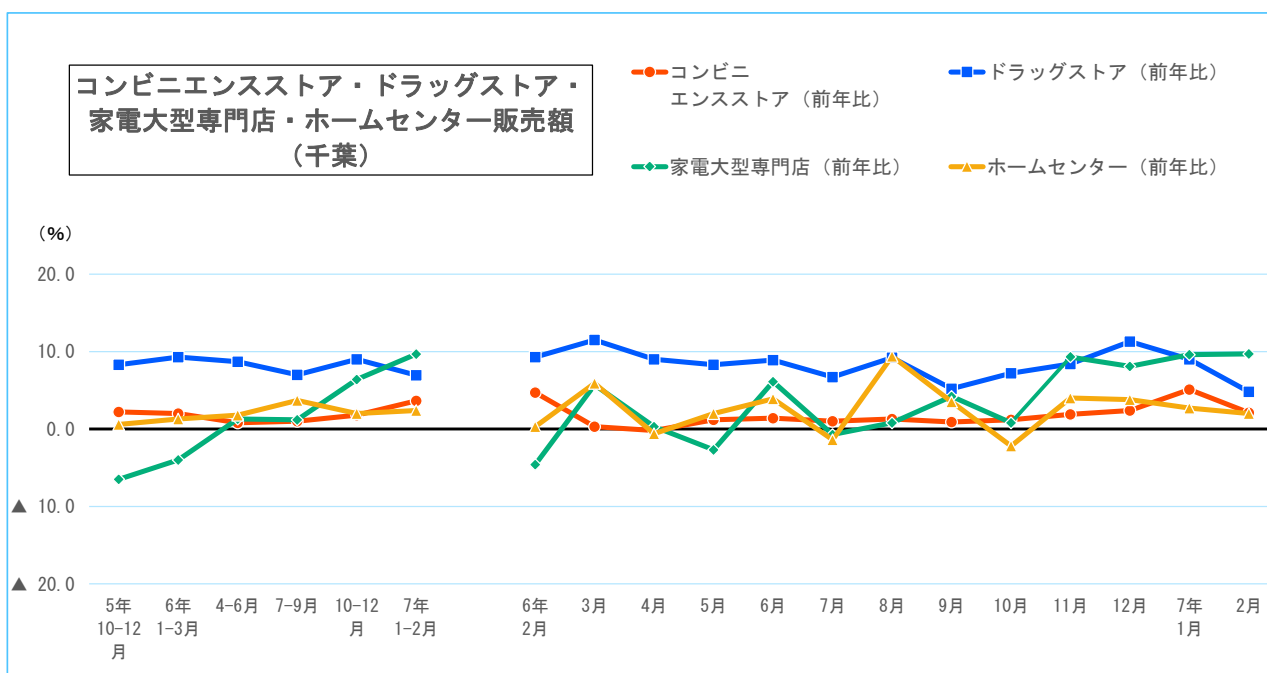
千葉財務事務所

1. 個人消費

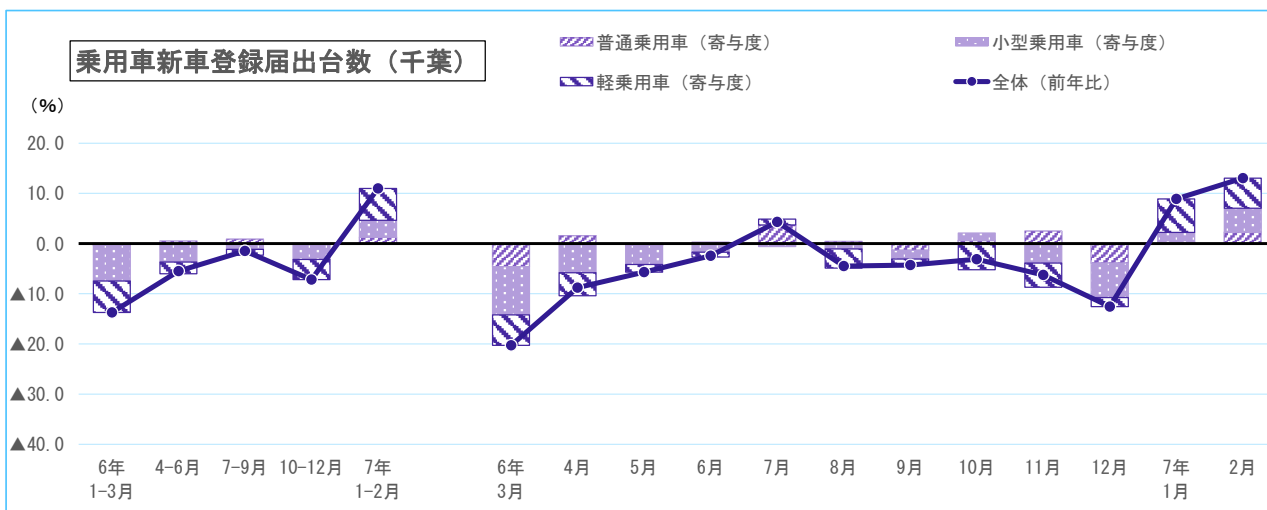
緩やかに回復しつつある



【経済産業省】



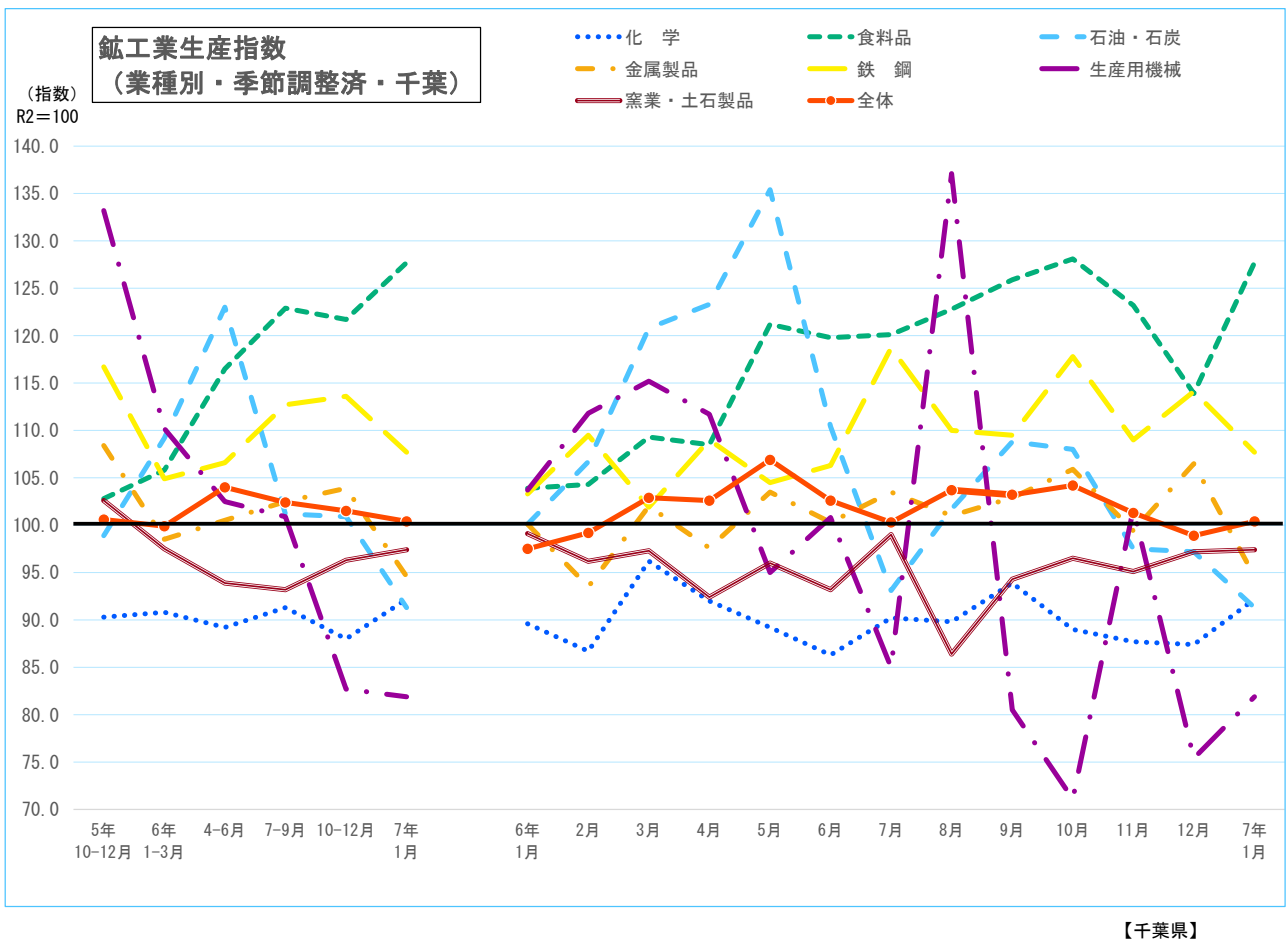
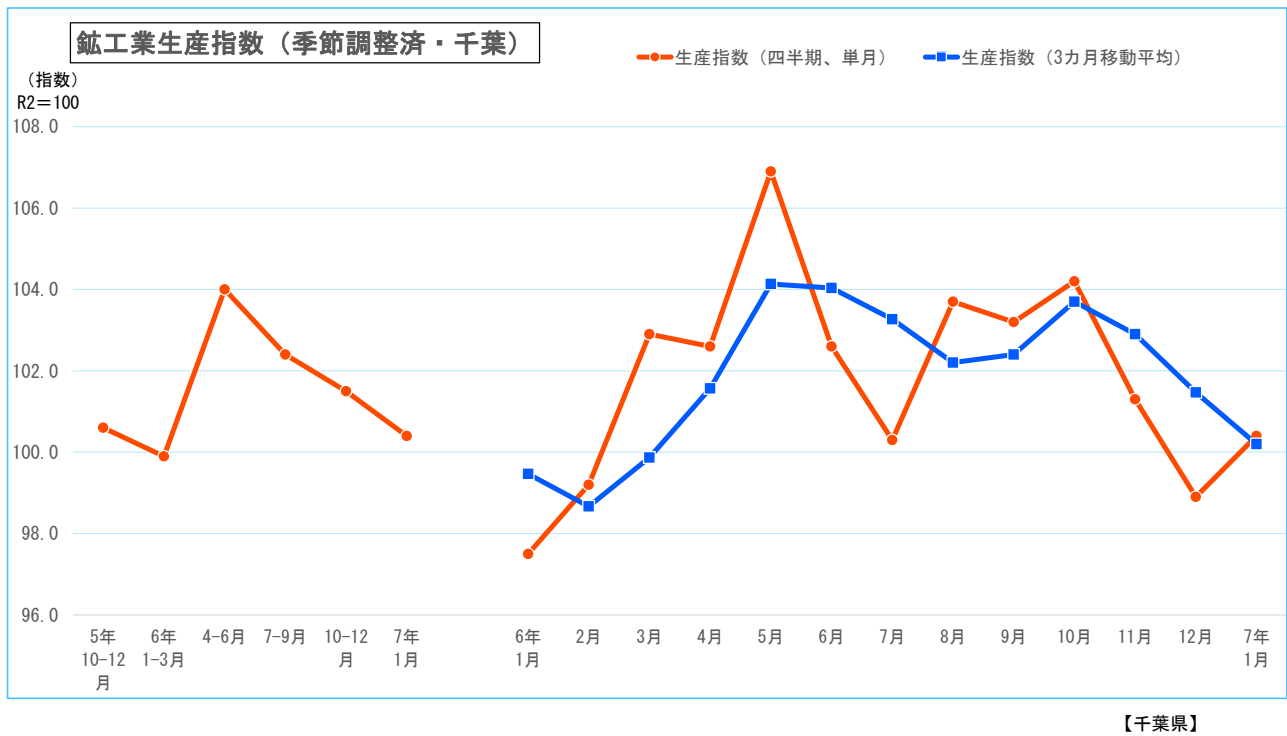
【経済産業省】



【日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会】

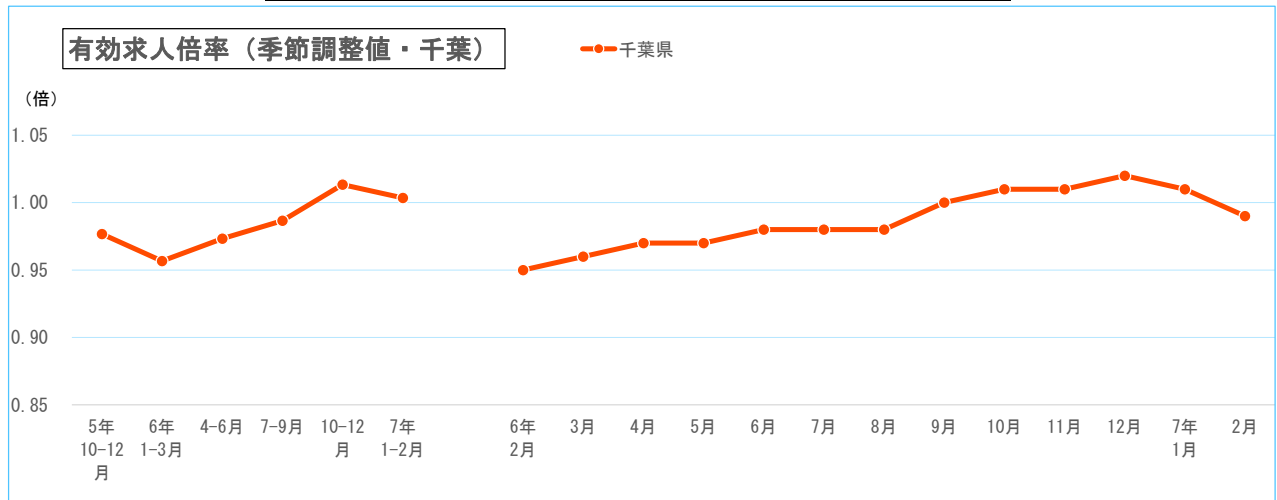
2. 生産活動

持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている

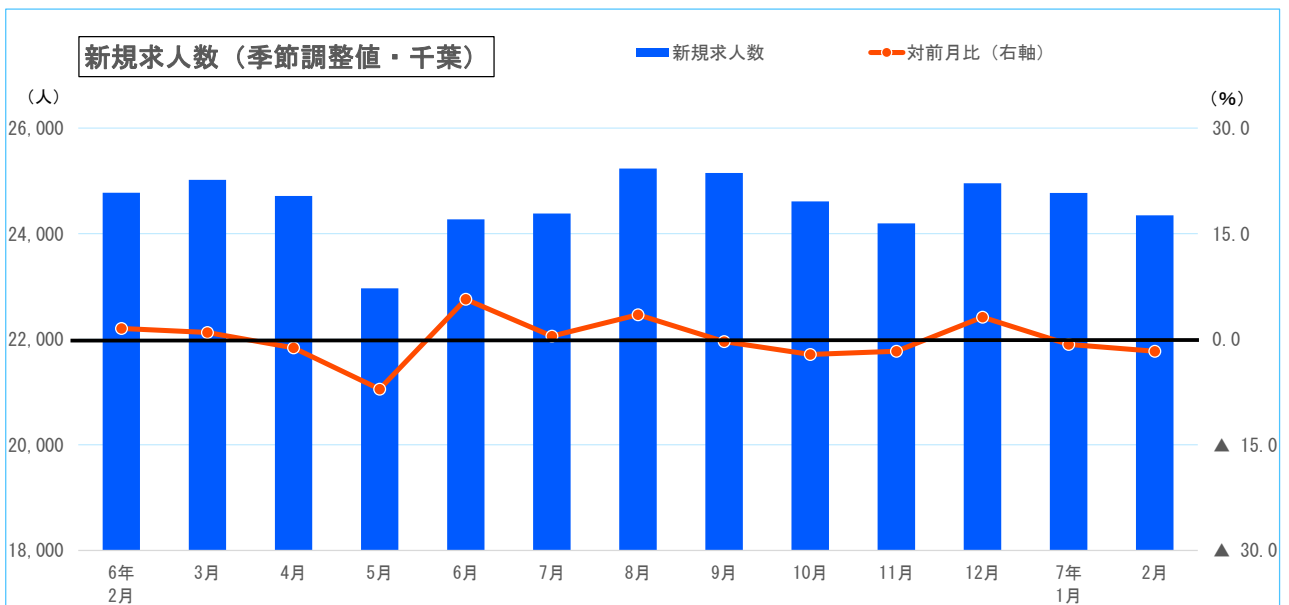


3. 雇用情勢

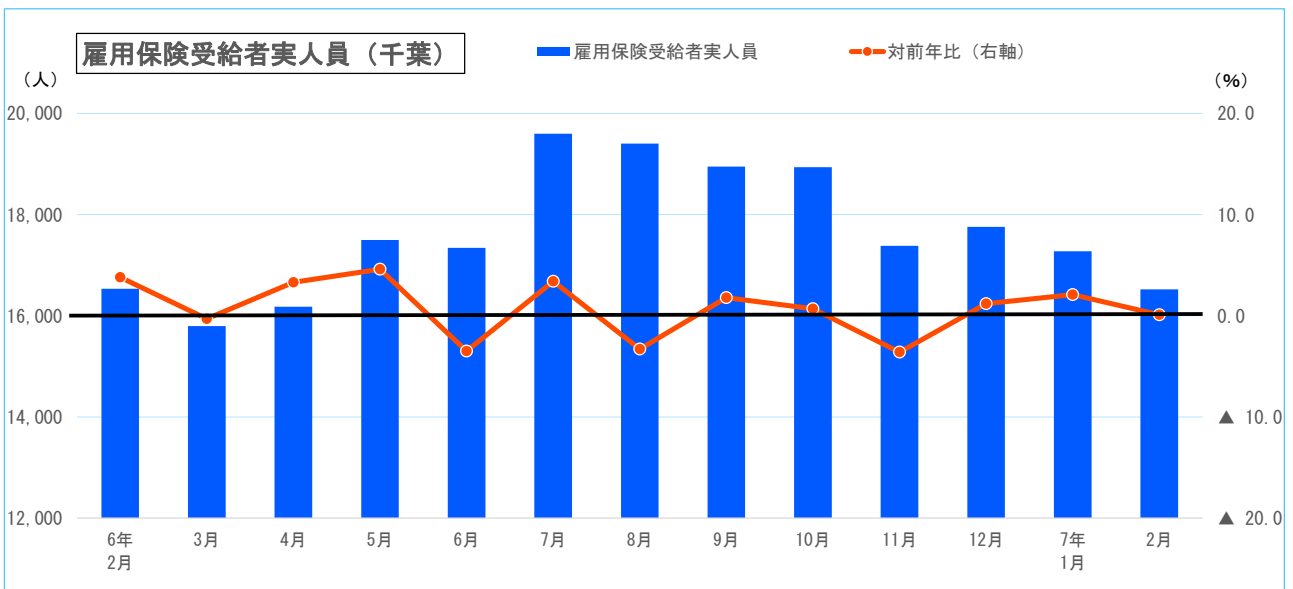
緩やかに持ち直しつつある



【千葉労働局】



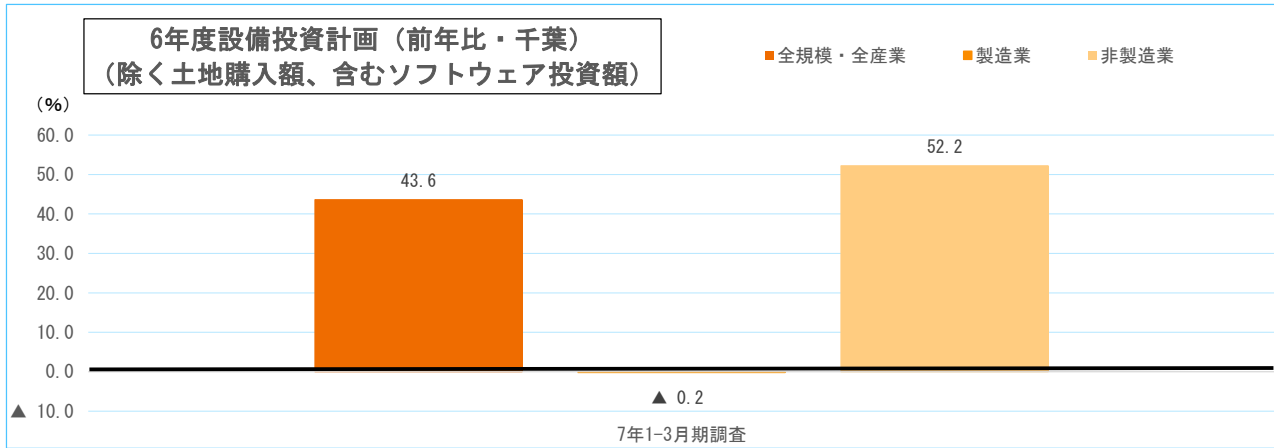
【千葉労働局】



【千葉労働局】

4. 設備投資

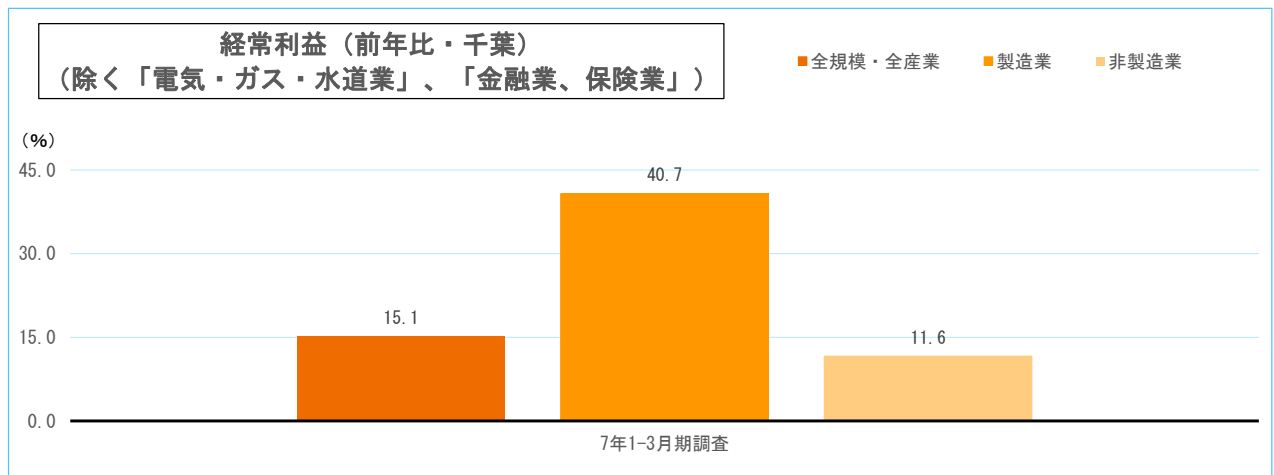
6年度は増加見込みとなっている



【千葉財務事務所（法人企業景気予測調査）】

5. 企業収益

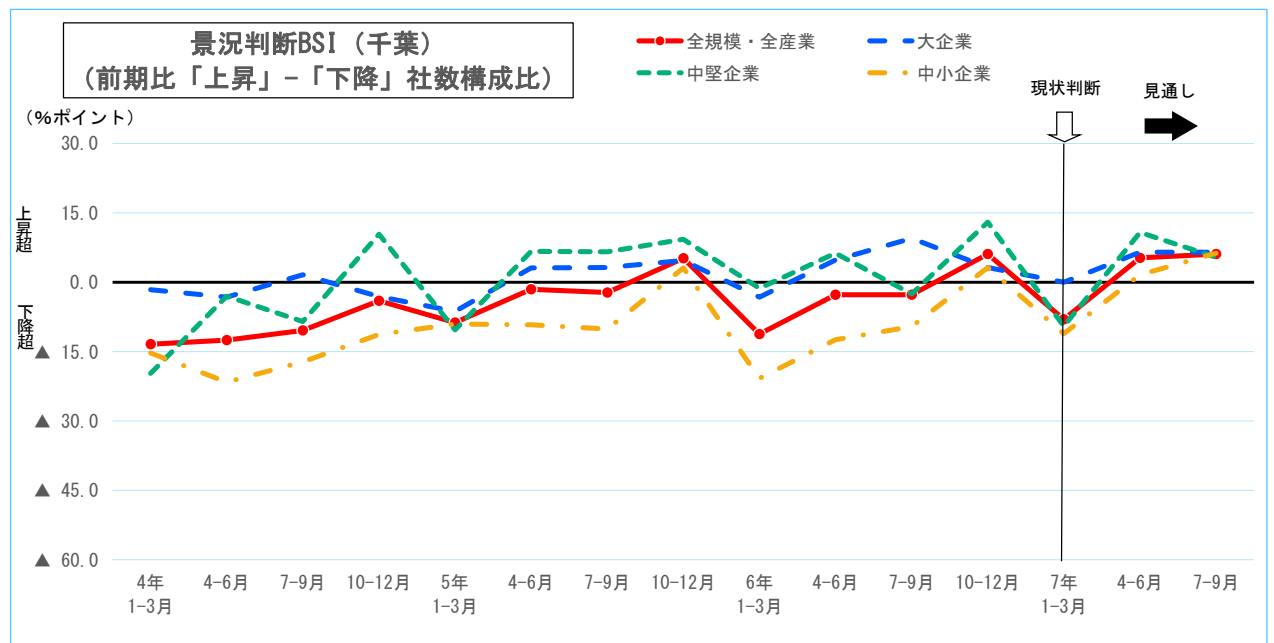
6年度は増益見込みとなっている



【千葉財務事務所（法人企業景気予測調査）】

6. 企業の景況感

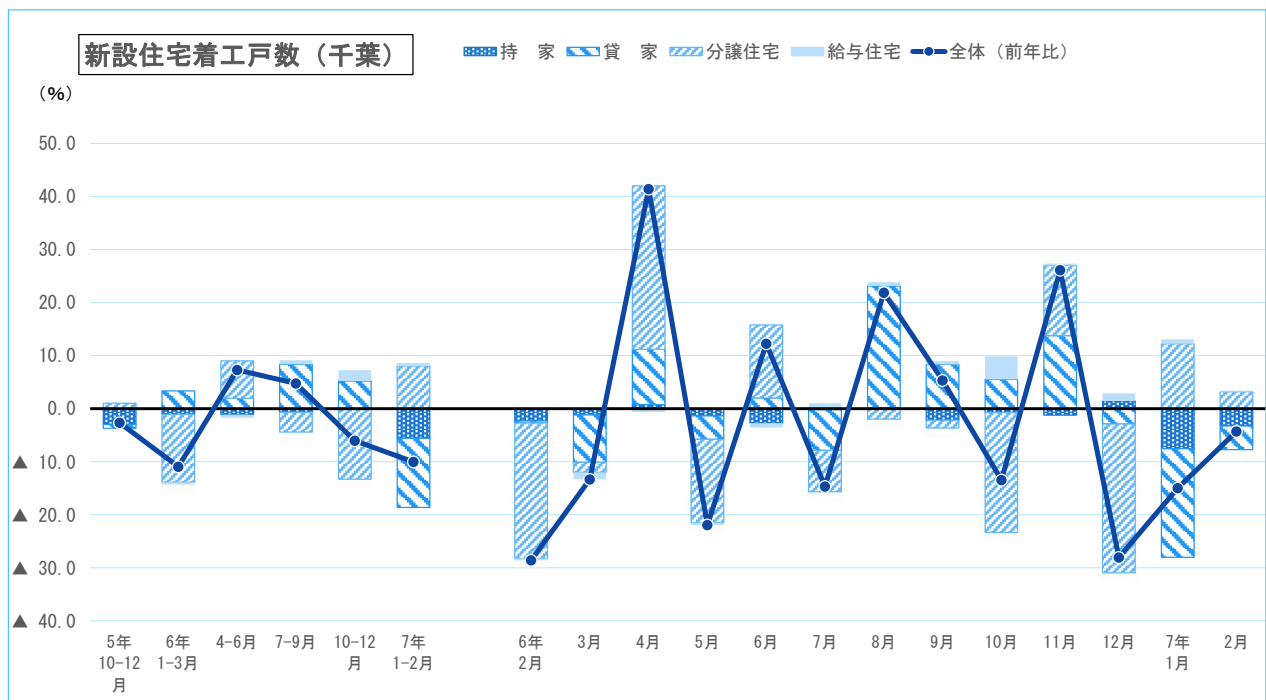
「下降」超となっている



【千葉財務事務所（法人企業景気予測調査）】

7. 住宅建設

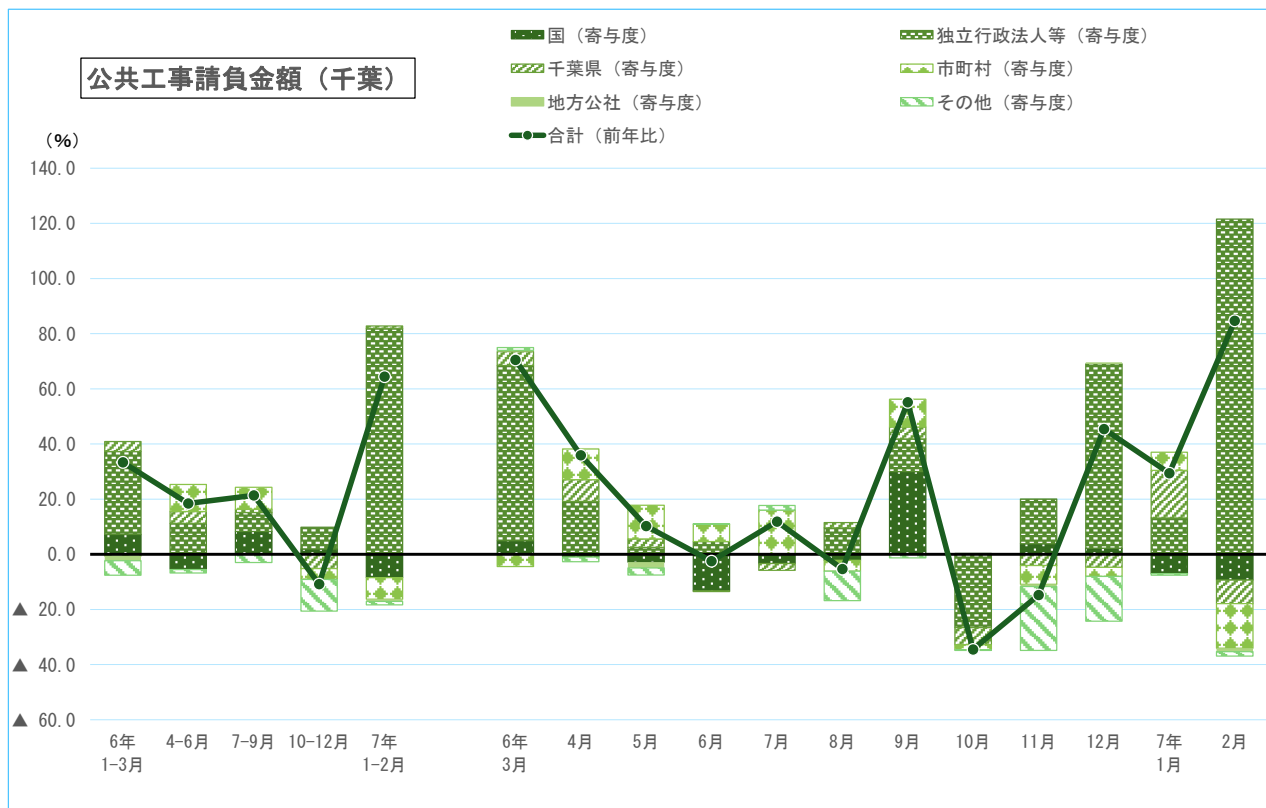
前年を下回っている



【国土交通省】

8. 公共事業

前年を上回っている



【東日本建設業保証株式会社他】